

1 研究主題

合唱・合奏などの表現活動や鑑賞の活動を通して、豊かな心を育てる。

～多様な表現活動を通して、音楽に対する感性を育てるとともに、豊かな情操を養う～

2 題材名 にっぽんのうた みんなのうた 「もみじ」

3 題材について

(1) 題材観

本題材は、学習指導要領のA(2)ア「歌詞の内容にふさわしい表現の仕方を工夫すること。」と、(3)ア「呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない声で歌うこと。」を受けて設定したものである。また、「もみじ」は、第4学年の歌唱共通教材に指定されており、日本の代表的な景色である「もみじ」の美しさを歌った楽曲として、多くの人々に親しまれてきた名曲である。

本題材にはいろいろな2部合唱の形が含まれていて、さまざまなふしの重なりや響き合いを感じて合唱することができる、美しく楽しい教材である。形式感が明瞭で、フレーズ感もつかみやすい。前半はカノン風の2部合唱、後半は3度の響きを保った和声的な2部合唱に続いて対位的な合唱でまとめられている。リズムは、4つのフレーズとも前半が同型である。後半もこのリズムが中心となっており、統一感が保たれている楽曲である。

この教材を通して、ふしの重なり合いを感じ、歌の美しさや響き合いの楽しさを味わいながら2部合唱をしようとする心情を育てていきたい。

(2) 児童観

本学級の児童〇名(男子〇名、女子〇名)は音楽の学習を楽しみにしている児童が多く、中でも合唱に興味を持っている子が多い。毎日歌う今月の歌では、歌声をより良くするために自ら意見を出し合ったり、体でリズムを取ったりすることができる元気で明るいクラスである。11月のオータムコンサートに向けて2部合唱に取り組んでいる真っ最中であり、アンケートでも「2部合唱は歌声がきれいになるから好き・楽しい」と答えた児童がクラスの約4分の3を占める。しかし、2部合唱を苦手としている残りの児童は、その理由が「つられる・音程が合わない」と2部合唱の難しさを克服できずにいる。

また、にっぽんのうたに関するアンケートでは、にっぽんのうたは「やさしい・おっとり・ゆったり・なめらか」といったイメージを持っていることがわかり、上手に歌うためには「やさしい声・笑顔・なめらかに・裏声を使って・やさしく」といった様々な工夫ができることを知っていることがわかった。

この実態から、情景を思い浮かべて、曲想に合った歌い方を工夫しながらも、ふしの重なりのおもしろさや美しさを感じながら2部合唱をすることができる学習を進めていく必

要があると考える。

(3) 指導観

ここでは、2部合唱をすることを最終目標としているので、ふしの重なり合いや響きの美しさをいかに感じ取らせることができるかが学習の鍵となる。そこで、ふしの重なり合いを聴覚的、視覚的、身体感覚的に感じさせることで、歌の美しさや響き合いの楽しさを味わいながら2部合唱をすることができるようになることを考える。

まず聴覚的アプローチとして、授業開始及び終了時のあいさつとに、I、IV、Vの和音を取り入れた簡単なコーラスに取り組む。常時活動として取り組むことで、基本的な和音の響きを自然に感じ取ることができるようになることを考える。また、合唱の導入として、歌詞が全く違う曲でつられることなく楽しんで「重ねる」活動ができやすいパートナーソングを取り入れる。簡単な曲を歌い合うことで、歌が苦手な子でも楽しんで声を出すことができ、旋律が重なり合うおもしろさを味わうことができると考える。

次に視覚的アプローチとして、各パートの旋律を線でつなぐことで、ふしの重なりのおもしろさを気づかせたい。また、カノン風の2部合唱の場面で、「花いちもんめ」の要領で出だしのタイミングをつかませたり、対位的な2部合唱の場面では、体で音の高低を表現させたりすることで、スムーズに副次的旋律を覚えることができ、身体感覚的にも2部合唱のおもしろさを感じることができることを考える。

さらに、ここでの学習を踏まえ、11月のオータムコンサートでも、音の響き合いを感じながら、2部合唱を楽しめるようにしていきたい。

4 研究主題にかかわる手立て

音楽科の目標は『表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。』と示されている。「音楽に対する感性」とは、音楽的感受性すなわちリズム感、旋律感、和声感、強弱感、速度感、音色感などであり、表現及び鑑賞の根底にかかわるものである。また、音楽的感受性は音楽を豊かに感じ取り、想像力を伸ばし、音楽美を感得する上でも重要な働きを持っている。「豊かな情操」とは美しいものや優れたものに接して感動する情操豊かな心であり、「豊かな情操を養う」とは、一人ひとりの豊かな心を育てるという意味を持っている。つまりこの学習では、ずらしたり、重ねたりしてできたきれいな音の響き合いを一人ひとりが体感することにより音楽的感受性を育て、日本の情景の美しさを感じたり、一つの歌をみんなで作り上げることによりこれを美しいと感じさせ、さらに自ら美しさを求めようとする柔らかな感性によって育てられる豊かな心を養えるようにしていきたい。

5 題材の目標

- ・ 歌詞の表す情景を思い浮かべながら歌う。【表現の技能】
- ・ 曲想を感じ取り、歌い方を工夫して歌う。【音楽的な感受や表現の工夫】
- ・ ふしの重なりや響き合いを感じて2部合唱をする。【表現の技能】

6 評価基準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の工夫	エ 鑑賞の能力
・			
① 日本の情景の美しさに関心を持ち、進んで歌おうとしている。	① 情景を思い浮かべて曲想を感じ取り、声の出し方や息つきなど主旋律の歌い方を工夫して歌っている。 ② ふしの重なりのおもしろさや響き合いを感じ取っている。	① ふしの重なりをよく聴きながら、2部合唱をしている。	

7 指導計画（2時間扱い）

時	学習活動	評価基準
第1時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歌詞の内容を理解し、旋律や歌詞を覚える。 ○ 主旋律を滑らかに美しく歌うように工夫しながら歌う。 ○ 歌詞の内容から情景を思い浮かべ、曲想を工夫して表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の情景の美しさに関心を持ち、進んで歌おうとしている。【関心・意欲・態度】 ・ 情景を思い浮かべて曲想を感じ取り、声の出し方や息つきなど主旋律の歌い方を工夫して歌っている。【感受や表現の工夫】
第2時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○ アルトパートの旋律を覚える。 ○ 各パートの旋律を線をつなぎ、ふしの重なりのおもしろさに気づく。 ○ 情景を思い浮かべながら合唱し、歌の美しさや響き合いの楽しさを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ふしの重なりのおもしろさや響き合いを感じ取っている。【感受や表現の工夫】 ・ ふしの重なりをよく聴きながら、2部合唱をしている。【表現の技能】

8 本時の指導（2／2）

(1) 目標

- ・ ふしの重なりのおもしろさや響き合いを感じ取ることができる。【音楽的な感受や表現の工夫】
- ・ ふしの重なりをよく聴きながら、2部合唱をすることができる。【表現の技能】

(2) 展 開

時配	学習内容と活動	○指導上の留意点 ●評価	資料
5	1 今月の歌「窓を開いて」を歌う。	○ 楽しく授業に入れるよう雰囲気づくりをする。 ○ 発声練習をかねて、姿勢や響きを確認しながら歌わせる。	歌詞
10	2 パートナーソングを歌う。 「はるがきた」 「ゆき」	○ 正確に歌うことよりも、楽しんで『重ねる』ことがねらいなので、多少間違ったり、音程がずれたりしてもよい。 ● 音の重なり合いを楽しんでいる。	歌詞
25	相手の声を聴きながら歌おう		
	3 「もみじ」を二部合唱で歌う。 ・ ソプラノパートを歌う。 ・ アルトパートの旋律を聴き、覚える。 ・ 各パートの旋律を線でつなぎ、ふしの重なりのおもしろさに気づく。 ・ 2グループに分かれて向かい合いながら手をつなぎ、「花いちもんめ」の要領で交互に前へ出ながら1・2段目を歌う。 ・ 音に合わせてひざを曲げ、体を上げたり下げたりしながら3・4段目を歌う。 ・ 情景を思い浮かべながら2部合唱をし、歌の美しさや響き合いの楽しさを味わう。	○ 前時に話し合った歌い方を確認して、歌わせる。 ○ 3段目の歌い始めの音程を正確に歌わせるよう意識させる。 ○ 低い音の歌い方に気をつけて歌わせる。 ○ 1・2段目はカノン風、3段目は3度のハーモニー、4段目は対位的な合唱であることを捉えさせる。 ○ 両パートが同じ音である部分を見つけさせ、互いの声を合わせるように意識させる。 ○ 伴奏や他のパートを聴きながら、自分のパートを口ずまさせて音程を確認させる。 ○ アルトパートは、3段目の歌い始めの音程を正確に歌わせるよう意識させる。 ● ふしの重なりのおもしろさや響き合いを感じ取ることができる。 ● ふしの重なりをよく聴きながら、2部合唱をすることができる。	歌詞 実物投影機
5	4 本時の振り返りをする。		